

# らっきょう（普通）

## 栽培暦

作型	月	7	8	9	10	11~2	3	4	5	6	7
普通			定植		追肥 中耕		追肥	土寄せ	追肥		収穫

## 栽培の特徴とポイント

土質は選ばないが、深耕と排水につとめる。積雪前に、額ぶち排水溝などを設け、融雪時の滞水を防ぐ。病害虫の発生予防のため輪作する。

例： 水稲 - 大麦 - らっきょう - 秋冬野菜

## 品 種

富山在来（らくだ系）

## 本ば管理

### 1 種球の準備

種球は病害虫の被害がなく、よく首がしまつて大球のものを選び、10 a 当り 300kg 準備する。乾腐病の予防のため必ず消毒する。消毒は種球を網袋の中に7分目入れ、殺虫剤および殺菌剤で種球を消毒する。薬剤液で浸漬処理する場合は、網袋を2~3回動かす。

消毒終了後、種球を風通しの良い所で陰干しする。

### 2 耕起、植溝掘り

植付け10日前に基肥を全面散布し、深めに耕起した後、植溝（巾45cm）を掘る。

### 3 施肥例

(kg / 10 a)

肥料の種類	総量	基肥	追肥			成分量		
			10月中旬	融雪直後	4月中旬	N	P	K
苦土石灰	60	60						
硝加燐安333 (13-13-13)	80	20	20	20	20	10.4	10.4	10.4
有機苦土重焼燐	40						12.0	
硫酸カリ	14		7		7			7.0
合計						10.4	22.4	17.4

#### 4 植付け

1)定植時期 8月上旬～下旬

2)栽植方法

幅45cmの植溝を掘り、種球を5cm間隔に植え付ける。覆土後、ワラで被覆して土が固まるのや乾燥を防ぐ。植え付けはあまり深くすると、分球が抑制されたり、乾腐病の発生を助長するので浅植えする。

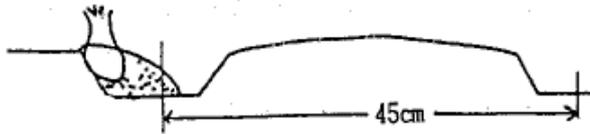


図 植付方法

#### 5 土寄せ

- ・ 10月中旬：追肥中耕後、排水用のくぼみを作る程度に土寄せする。
- ・ 融雪直後：追肥後、青球の発生を防ぐために、葉の元まで丁寧に土寄せする。
- ・ 4月下旬：追肥後、青球の発生を防ぐために、葉の元まで丁寧に土寄せする。

#### 6 種球生産

良質な種球を確保するため、種球生産を本ぼの一部で行う。

- 1)必要面積は本ぼ10a当たり2.5aとする。
- 2)親球は無病で7g前後の中粒を用い、本ぼ10a分として45～50kgを用意する。
- 3)植付けは株間8～10cmのやや疎植で、本ぼより少し深植えとする。
- 4)施肥量は本ぼ並でよいが、多肥にならないよう注意する。

#### 病害虫防除

ネダニ：定植時に殺虫剤を全面施用する。

乾腐病：植付け前に種球を消毒する。

#### 販売のポイント

大玉らっきょうや青らっきょうを除き、通気性のよい麻袋やネット袋等に入れ出荷する。  
生らっきょうと1次加工品を組み合わせる計画的に販売する。